
アレルギー

アレルギー

米内山陽子
ver.1.000

登場人物

女 男

■ 前編

* 小さなバー。

* 男は待っており、女は後から来た。

女 早いね、待った？

男 いや、いやいや、そうでもない。

女 そ？

男 うん。

女 実は結構待ったくせに？

男 えっ？

女 その、豆。

男 あ、いや、これは、ぴ、ぴす

女 ピスタチオ

男 うん

女 すごいね、山になってる。鼻血でないの？

男 これはがっとしてがっとしてがーっとしたから。

女 え？

男 これはもう、がーっとしたから。

女 ああ。

男 こんなのは、モノの数に入らないっていうか、一瞬だから。

女 うわ

男 え？

女 なんか恥ずかしい。自分が。自惚れてて。絶対三〇分は早く来て待っていたんだろうと思い込んでた。なんという調子乗りなんだわたしっていう恥ずかしさ。うわあ、穴があったらなんとやらってこういうことだね。ないかな、穴。手頃な穴。穴はどこじゃーって、あはは。さむうい。ああ、もう何言っても恥ずかしい。

男 いや、実はホントに三〇分くらい前に来てて。

女 あ、え、あ、そうなんだ。うわあ、待たせちゃってごめんねえ。っていうかもうやめようかこの話題。すでにさっきのニヤニヤ顔の自分が恥ずかしすぎて軽く死ぬるよ。あはは

男 いやいや、調子に乗るのもしようがないよ。実際：

女 いやフオローはいらないから。ちよっと反省させて。

男 ははははは

女 …… (眉間に大いに皺)

男 …… (何か言いかけてやめる)

女 ……ふうふううう (大きく深呼吸)。

男 あのそんな…

女 さて

男 あ、終わった？

女 ごめんこれ以上触れないで、表面張力でどうにか耐えられるレベルまで逃がしたただけだから。(超早

口)

男 お、おう

女 ごめんねすごいめんどうさくてほんと。

男 いや、平気平気

女 ……えへへ。

男 えへへ。

女 えーとじゃあ、いいかな？

男 ! うん

女 えーとね

男 うん

女 えーと（もたもた）

男 ……（息が止まっている）

女 うーんと（もたもた）

男 ……（息が止まっている）

女 まずね

男 うはあ、うん

女 なんていうか、うん、ありがとう

男 あ、いや、はは。お礼を言われると、変な感じ

女 そうかな

男 そう

女 わたしは何にしろまずお礼かと思って。なんていうか、嬉しくて。こういうこと、初めてで。どうしていいかわかんない部分もあって、でもとにかく、お礼はね、人として基本だし欠かしちゃいけないものだと思うし、いや、そう言う社交辞令以前に、素直に嬉しいっていう気持ちありきだよ？もちろん。気持ちありきで、まずお礼かなって思ったの。ほんと、嬉しかったから。

男 あ、そう、なんだ。いや、喜んでいただけで、なにより

女 イエイエ

男 イヤイヤ、ほんと

女 でね、

男 うん

女 なんていうか聞いておきたい事もあつて

男 うん、なんだろ

女 どうして？

男 ん？

女 どうしてわたし？

男 あ、ああ。えー、とね、（咳払い）なんていうか、うーん、うまくいえないけど、丁寧なところ、とかかなあ。

女 丁寧

男 うん、丁寧。

女 ……（激しく眉間に皺）

男 あれー

女 ……あの

男 うん

女 なんていうか、ほんと、わたしこういう事初めてで、今までだってあんまりいい経験を積んでないから、何というかこの年でこんな事言うの本当に恥ずかしいんだけど、免疫がないの。免疫がない事は自覚してるの。その上嫌な思いだけはいっぱいして来たのね、下駄箱にラブレター入ってると思ったら罰ゲームだったとか、わたしの隣になると皆異様に机を離すとか、わたしが拾ったものは全部ゴミ箱行きとか、やっと話せたと思ったらお金たかられたり、もうこれ以上話すとひくと思うから言わないけど相当、嫌な思いしたの。ずーっと。社会に出てようやく人並みの人付き合いできるようになったと思うけど、こういうことはいつつも上手く行かなくて、自信がないの。人との距離の取り方がわからないの。誰を信じていいかもわからないの。もう、ケーキだと思って食べたならロウソクだった、みたいな思いはしたくないの。

男 う、うん

女 丁寧ってなに？

男 え、あ、うん、えーとね、字がネ

女 ジ？

男 うん、あの、この（書くジェスチャー）

女 文字の？

男 うん。店のさ、連絡帳、あるデシヨ。

女 休憩室の？

男 そうそう。あれ、いつつも書いてるデシヨ？

女 うん。

男 その字がさ、丁寧な字でさ。綺麗な字なんだけど、「綺麗」より先に「丁寧」って思うような、キチツとした字で。そんで、文もさ、わかりやすくして丁寧でさ。たまに添えてあるイラストは上手じゃないけどやっぱり丁寧でさ、そういうところ、いいなあと思って……………なんだけど

女 ……………（眉毛が異様にハの字）

男 納得、できない？あの、一応、ちゃんと好き……………

女 ううううれししいいいい

男 あ、良かった。

女 うふふふうううう（喜びをかみ殺す）

男 あははははは。

女 （は、と口を手で覆い）あ、あたしキモチワルイ。あははごめんね。

男 いやいや、そんなことないよ。……………じゃあ。

女 うん。……あ。

男 うん？

女 (手を見つめる) (男を見つめる) (交互に)

男 どした？

女 あ、いや、………あのなんていうか、わたしなんかこんなことを言うのもおこがましいんだけど

男 うん、何だろ？

女 条、件？っていうほど大袈裟なもんじゃないんだけど、まあ他に言葉がないから条件って言っちゃう

けど、条件みたいなのがあって、

男 え、あ、うん

女 わたしの取扱説明書的な

男 あ、ああ、うん、え？

女 ……わたしこういう事言う女だけど大丈夫？

男 いや、興味ある

女 ひかない？

男 ひかないひかない

女 (深呼吸) ……手を繋がなくてもいい？

試し読みしていただけるのはここまでです。

この続きは商品をご購入の上ご覧下さい。

アレルギー（おためしサンプル）

2011年5月11日 初版発行

著 者 米内山陽子 © 2011年

発行者 石村寛之

発行所 有限会社レトロインク

〒181-0001 東京都三鷹市井の頭4-26-7

電話 0422-49-2903
